



代表取締役社長
製造本部長

茂泉 勝弘 氏

《信条》社員は家族です

Q1 会社の強みは何ですか？

A1 対応力と営業力を活かし、オーダーメイド製品を安価に短納期で提供しています。エンドユーザーへの訪問も積極的に行っています。

Q2 新製品についてお聞かせください。

A2 震災で停電を経験した宮城から発信する太陽光蓄電システムで、産学医連携で誕生しました。雨の日でも充電可能な常用独立電源です。



「タレットパンチプレスは工程の入口である板金で使います。ボトルネック抑止も含め、作業工程の改善に大きく貢献しました」と茂泉氏は語る。

**速さと正確性を追求し
ものづくり会社を極める**

加工力の向上により、新製品開発にも注力していくと茂泉氏。東北大学と共同で東北発の蓄電システムを開発した。

「当社には様々な職人がいます。その技をさらに高められる場を提供していきたい。より速く、より正確に多彩な製品を造り、幅広い技

古川工業株式会社

代表取締役社長 / 茂泉 勝弘

所在地 / 宮城県柴田郡柴田町大字船岡字山田1-27

T E L / 0224-55-2252

【24年度補正】
タレットパンチプレスの導入による
コスト低減並びに生産性の向上



術を身に付けられる環境を整えたいですね。

目指すは、アグレッシブに新分野へ取り組んでいける、ものづくり会社。さらにその先には海外進出を見据えている。



配電盤等の製造を通じ
日本のインフラを支える

古川工業株式会社は、配電盤、受変電設備などの販売、設計、製造を行う古川電気工業株式会社の製造拠点。分電盤や制御盤の板金、塗装、組立、出荷のほか、配電盤等の板金と塗装を手掛けている。

同社の製品は工場や病院、ビル、官公庁などに納入されており、これらはすべて顧客の要望を形にしたフルオーダー。変更要望にも即応する対応力で顧客からの厚い信頼を得ている。

「直接の顧客は電気工事を行うサブコンが中心ですが、当社ではエンドユーザーへの訪問も積極的に展開しています」と語るの代表取締役社長兼製造本部長の茂泉勝弘氏。エンドユーザーへのきめ細かなフォローによってシェア、売上ともに堅調に推移している。

需要拡大に 대응するため
生産性向上を図る

最近では関東、関西の案件も数多く手掛けている同社だが、建築工事の短納期化に伴い、配電盤類の製作も短納期が求められる傾向が強い。案件の増加、短納期要求に応える生産効率アップのため、同社では板金の打ち抜き加工に用いるタレットパンチプレスのリプレスを実施。市場の要求に柔軟かつ迅速に対応できる体制を整え、顧客ニーズにマッチした製品の短納期製作を



目指した。

**ボトルネック防止を含め
作業工程を大幅に改善**

タレットパンチプレスのリプレスによって、加工時間は約20パーセントの削減を実現。新鋭機は高速バリつぶし対応となっており、作業者の作業負担軽減のみならず安全性にも結び付いた。また、加工データを取り込むコンピュータも通信機能を搭載、併せて運用ソフトの改善を図ることで、急な仕様変更にもボタン一つで対応可能にした。



FILE.19

フルオーダーへの高い対応力で全国へ